（前ページ下段から）

うれしゅうはなかったです。組合の方が、「ぜひつれてきて……」といいなはったばっかりに、兄ちゃんをつれて来たとです。

昨夜の通夜に、せめて所長さんのおいでを、私たちがどれほど待っとったと思うですか。また、会社の人に何回も呼びにいっていただきました。それに、あなたはとうとうおいでてくださいませんでした。こんな会社が、どこにありますか。

どこの会社でも、自分のところの従業員が死んだならば、たとえこんなにもひどい殺され方をされなくてさえ、ちゃんと所長さんが哀悼の意を表しにくらいはやってきてくれるもんです。

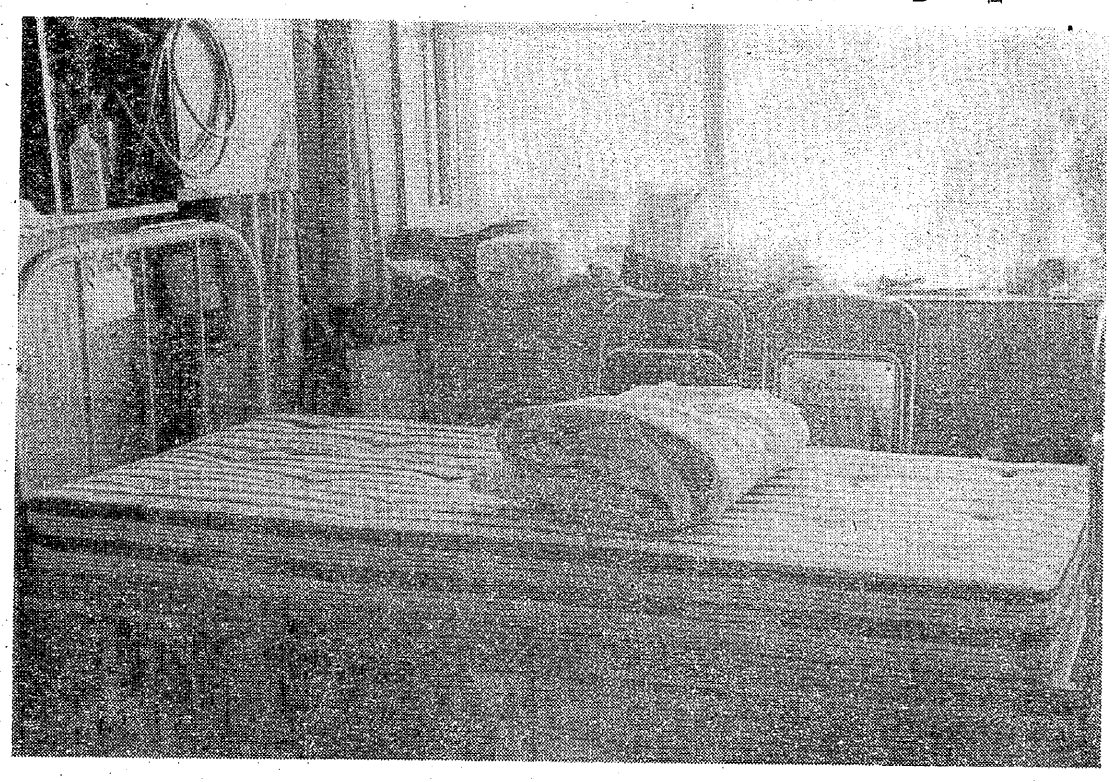
それに何ですか。自分たちが殺しておきながら、何ですか。なんとかかんとか口実つけて、通夜にさえ顔を出していただかないとは何ごとですか。よくも、弔辞が兄ちゃんの柩の前で読めたもんですね。何が、「安らかにお眠りください」ですか。

智　子（妹）　自分たちで殺しておきながら、何ですか。兄ちゃんを返してください。

和　子　何も要らんです。返してください。

母　親　それが、あなたたちの責任のはず。何も要りません、重信の命を返してください。

所　長　……。



あるじをうしなつて、がらんとした熊大病院のベツド。宮島さんがその無残な命を、10年2カ月も託してきたベツドである。ベツドももし心あれば泣け。

余りにもひど過ぎる
あなたも人の親のはず

和　子　そうです。社葬前までには、「会社の考えをおこたえ致します」と、いいなはった言葉をちゃんとこの耳で聞いております。

私たちが、「兄ちゃんの死に対してどうこたえるか。はっきりしてください」というと、あなたは「時間をかしてください。相談するのに、いくらかの時間がかかるから」といいなはったです。私はちゃんと聞いたです。

そのとき、「兄ちゃんがこげんひどか姿で死んでいったのは、兄ちゃんの責任でしょうか」と私がおたずねしましたら、あなたたちはちゃんと、兄ちゃんの責任ではなかと、いいなはったです。はっきり、「会社の責任です」といいなはったです。

兄ちゃんの責任でないなら、そんならだれの責任ですか。はっきりしてください。

組合員　おまえたちは、自分の会社の従業員が死んでも、その通夜にどま、やって来ることもなかぐらいにしか、思うとらんとじゃろが。通夜のとき、会社の人間を何べん呼びにやったか。それでも来んやった。所長として、通夜にどま来てくれるのが当たりまえじゃろもん。

おまえたちはよくその口で「会社は親で、従業員は子ども」というて来とるじゃなっか。その子が死んだつだけん、その親が通夜にくらい飛んで来るのは当たりまえじゃろもん。それに、呼びにやったっちゃ来んとは何ごとか。それが人間としてできることか。

所　長　……。

石　原　よくもまあ、「安らかにお眠りください」などと書いた弔辞が読まれますね。私も、CO患者家族の会を代表して弔辞を捧げましたが、どげん思うたっちゃ「安らかにお眠りください」、とは読めんじゃったです。

久　保（主婦会々長）　通夜にも来なかった口実は、「会議」にきまっとるでしょうが。会議が何ですか。会議にはまたがある。ばってん、いったん死んでしもうた以上、人間の命にまたはなかですよ。あんまりした会社の態度ではなかですか。

和　子　私は、どげんしたっちゃわからんです。炭じん爆発を起こしたつは、兄ちゃんではないとです。兄ちゃんが、自分の責任で、あげん姿になるはずはなかです。会社の人自身、「三川鉱の責任だ」と、いいなはったです。兄ちゃんを殺したのは、三川鉱の責任だといいなはったです。自分の責任で殺しておきながら、通夜にも来ないなどという会社がどこの世界にありますか。

お宅も、人の親でしょうが。自分の子どもが、どこのだれかに殺されたときのことを考えて見らんですか。そのとき果たして、いまのようなひどい態度がとれるものかどうか。

所　長　……。

久　保　さ、いうて見なさい。

父　親　まだこの災害にあわなかったまえの遺影の重信の顔と、いま棺のなかに横たわっている重信の顔を、ようと見比べてみてください。棺のなかの顔は、人間の死に顔じゃなかですよ。

和　子　あなたたちの仕打ちは余りにもひど過ぎます。

所　長　……。

申しわけがない……所長
遺族　白々しいことを……

和　子　自分の子どもの体が骨が見ゆるまで腐って見らんですか。さぞ気持が悪かろうと思って噴き出ている血膿をふいてやろうとしますと、皮がヌルりとはげるとですよ。頭の髪の毛なんかも、一本残らず抜け落ちてしまって。

所　長　申しわけございません。（つっ立ったまま、深く頭をさげる）

義　之（兄）　何が「申しわけございません」ですか。そんなことが、よくもいえたもんだ。

母　親　口をついて出て来る言葉は、白々しいことばかり。

和　子　よかです。兄ちゃんの体は、もともと腐っとるとですですから、これ以上腐ってもよかです。会社から誠意のある考えを聞くまでは、兄ちゃんの遺体は絶対焼かんです。いざといえば、兄ちゃんをお宅の玄関にでも、どこへでもつれてゆきます。

所　長　何とも、申し上げようがありません。口実のようにとられるかもわかりませんが、今はただこうおわびするほかございません。

溝　口　本来なら、今日の社葬には、有吉社長が出て来るべきはずだ。代理どんやって、弔辞を読ませる。いったいこれは何ごとですか。

母　親　何でも代理ですむとなら、重信に、会社のだれかにかわってもらって、死んでもらいとうございました。

所　長　……（頭を深く下げるばかり）。

義　之　従業員という子どもが死んだというのに、親の社長がその社葬にさえ顔を出さんとは何ごとですか。それが、三井のいう親という者のすることですか。

谷　端（書記次長）　会社に出している要求は、もともとそれだけですむのではなく、ただ、ご遺族のために、せめてとりあえず……という気持を現わそうということでしょう。ほんとに「申しわけがなかった」、と思っているのなら、これくらいのことは、会社の態度としてこたえるべきだ。

だいたい、こっちの要求にどうこたえるか、とする態度自体おかしかですよ。まずこのくらいのところで、会社の気持を汲みとってくださいと、そっちの方からすすんで申し出るべきことではなかですか。こたえる、こたえんの問題じゃなかでしょうが。

所　長　……。

父　親　三川鉱の、本来ならば炭じん爆発なんか起こるはずのない主要坑道を、爆発するような状態においとったのはいったいだれですか。

私も炭鉱夫。長い歳月の間、いろんな炭鉱で働いてきたうちにはなるほど切羽あたりで爆発が起こるくらいなことはございました。ばってん、主要坑道が爆発するというようなことは三川鉱よりほかには聞いたことも見たこともなかですよ。会社の責任でなくてだれの責任ですか。

谷　端　ご両親はじめ各遺族はですね、毎日毎日わが子の体が腐ってゆく事実を目の前に見つめながら、それで看病を続けてこられたんですよ。それこそ十年二カ月。一日二十四時間、不眠不休。ノドにつまるタンは取ってやらなければならん。小便はとってやらなければならん。褥創の手当はしてやらなければならん。いつ、けいれんがくるかわからない。

父　親　ここにいる一番下の息子は、あのとき小学校の三年生じゃったですよ。それをほったらかしにして来たとですよ。

谷　端　一番上の兄さんは、一年間も勤めを休んで自分の弟を看病しなはったですが、その過労のため亡くなってしまいなはった。そのご長男のお葬式すら重信さんにつきっきりのご両親は、何もしてあげられなかったほどです。

母　親　おっしゃる通りです。長男の葬式さえ、満足に見てやることのできなかった親の気持が、あなたたちにわかりますか。

父　親　お願いします。

所　長　……。

永　江　息子の重信さんを殺されたお父さんに、殺したあなたたちに向って、「お願いします」といわせるなんて。余りにもひどすぎる。

石　原　考えてください。苦しみは何も、宮島さんご一家ばかりじゃなか。うちのお父さん（自分の夫のこと）は、私がよそにゆくときは、つれて歩かんならんCO患者です。それでも、あの日ちょうど、病院から外泊で帰っていたお父さんを、通夜につれてくることもできず、それならば……と社宅の自分の家のすぐそばまでき て、ここならよかろうと思ってくるまからおろしたところが、お父さんがわが家にたどり着いたのはもう夜も、九時過ぎてから。

私もいわせてもらいます、昔のお父さんを返してください。返して……。（泣きくずれる）

所　長　……。

父　親　三池労組が栗木元社長たちを〝殺人罪〟で、福岡地方検察局に告発したのに対して、検察権力の手で〝不起訴〟となったからと、会社は安心しとるとじゃろうが、三川鉱であの大爆発が起きて、人間がズラーッと死んでいるというのに、隣りの宮浦と四山の両鉱では石炭を掘らせよったというではなかですか。

あのとき、かりにもサッと救助隊を坑底に差し向けてもらっとったならば、重信も、こげん化けもんのごたる死にざまをせずにすんどったはず。

所　長　申しわけございません。

爆発遺族　同じあやまるなら手をついてあやまれ。

所　長　ご迷惑おかけしました（といって、両親の足もとに手をついてあやまる）。

×

こうして抗議は続いていった。

何がゆえの苦しみか
しっかり手をついてあやまれ

くやし涙をこらえ、それでもたまらず抗議する和子さん。